



# 学校だより

令和5年10月31日  
横浜市立仏向小学校

11月号

## 限界突破

校長 大嶋 智子

『限界突破！ ～昨日の自分を超えていこう～』“2023たかのかオリンピック”のスローガンです。私は、このスローガンが大好きです。仏向の子どもたちは、10月21日日本番当日、一生懸命なその姿でこのスローガンを具現化してくれました。

児童運動会実行委員会が中心となり全校で決めたこのスローガンは、運動会本番をめざす子どもたちの心にしみわたりました。運動会の計画は夏休み前から、練習は1カ月前から始まっています。どんな運動会にしていきたいのか、心を合わせることから始まります。運動会が好きな子も、そうでない子もいます。10月に入っても続く猛暑の中では、楽しいばかりの練習ではありません。限られた練習時間の中で、先生たちも段取り良く練習計画を組み、共に気持ちを盛り上げていきます。先生たちのかけ声が校庭から聞こえると、ゾクッとさせられることが度々ありました。その本気度は子どもたちにも伝わります。“自分の限界を超えたい”“チャレンジしたい”“頑張りを見てもらいたい”、どの子もそんな気持ちになっていく様子が日に日に強まってきました。



「運動会は一人では作れません。みんなで作るものです。」開会式の中でお話した言葉です。互いの刺激が、励みになります。特にブロック演技は、教室でも、自宅でも、中には公園などでも練習していたと聞きました。曲を体で覚え、繰り返し練習し、皆で揃え、一つとなろうとしていました。

「できっこないをやらなくちゃ～アイ ワナ ビー あきらめない子」(低学年)

「響きあえ!ビューティフルモンスターズ!」(中学年)

「光れ!羽ばたけ!仏向の舞」(高学年)

本番では、緊張を乗り越え、最高の演技、感動の姿を見せてくれました。徒競走も、自分の限界の力を出し切り、ゴールまで走り抜けました。



仏向の子どもたちは、この運動会でどれほどの自信をつけ、どれほどの成長を遂げたことでしょう。

「私は、この閉会式での『閉会の言葉』を担当することも、自分の限界突破のひとつでした!」と述べた5年生代表児童の言葉に、私は胸が熱くなりました。人は、見ていてくれる人がいるからこそ、頑張れることがたくさんあります。多数のご参観とご支援、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。